

メンテナンス／SPTを科学する



大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学講座 教授 久保庭 雅恵

【抄録】

なぜメンテナンスやSPTが必要なのか？それを理解するには、自らがメンテナンスやSPTに際して実施している処置内容（用いる器材、テクニック、リコール間隔の設定等）によって、個々に異なる口腔内のどのような病原因子を除去し、患者さんの口腔環境を良好に維持しようとしているのか、ということを確認にする必要がある。

ヒト口腔内に共生する微生物のうち、歯の表面を覆う被膜（ペリクル）の構成成分である唾液タンパクと特異的に結合する能力を有する早期付着菌がまず歯面に付着し、分裂増殖しつつ菌体外に粘稠なマトリックスを放出し、そこにさらに多くの微生物が加わることで口腔バイオフィームが形成される。歯面に付着したバイオフィームは、ブラッシングやフロッシング、咀嚼などによる物理的破壊がなければ時間とともに蓄積・成熟する。

このような成熟過程を経てバイオフィームの構成菌種の存在比率が変化し、宿主抵抗力とのバランスが崩れた時、疾患発症に至る。つまり、歯肉縁上バイオフィーム、歯肉縁下バイオフィームとも、形成初期段階における病原菌の比率は低いのである。したがって、dysbiosisに至る前の段階で、バイオフィームを日々の機械的清掃（ブラッシング、フロッシング）によって破壊し初期化することは、dysbiosisを予防する最も効果的な方法である。また、セルフケアで対処困難な部位の機械的清掃をプロフェッショナルケアで補完するという観点から、深い歯周ポケットなどセルフケア不可能な部位の有無や個々のセルフケア能力の違いが歯科医院でのメンテナンス間隔を設定する重要な要因となる。

本講演では、口腔バイオフィームのdysbiosisによって引き起こされる口腔2大疾患のうち蝕と歯周病の病因論を概説し、これらの疾患の発症や再発を予防するのに有効なメンテナンス／SPTを実施するためのエッセンスを提示する。先生方の日々の臨床の一助となれば幸いである。

【略歴】

- 昭和63年 3月 京都大学農学部農学科卒業
- 平成 7年 3月 大阪大学歯学部歯学科卒業
- 平成 7年 6月 大阪大学歯学部附属病院医員（歯科・研修医）
- 平成 9年 4月 大阪大学歯学部附属病院医員（予防歯科）
- 平成10年 7月 大阪大学歯学部歯学科助手（予防歯科学講座）
- 平成15年 9月 米国フロリダ大学へPostdoctoral Fellow（博士研究員）として留学
- 平成19年 4月 大阪大学大学院歯学研究科助教（予防歯科学）
- 平成24年 1月 大阪大学歯学部附属病院講師（予防歯科）
- 平成28年 4月 大阪大学大学院歯学研究科准教授（口腔分子免疫制御学講座予防歯科学）（令和 6年 5月まで）
- 平成30年 7月 大阪大学大学院歯学研究科准教授（口腔感染制御学系部門予防歯科学講座）（令和 6年 5月まで）
- 平成30年 9月 九州歯科大学非常勤講師（地域健康開発歯学分野）（令和2年3月まで）
- 平成30年 4月 徳島大学非常勤講師（予防歯学分野）（令和 5年 3月まで）
- 令和 6年 6月 大阪大学大学院歯学研究科教授（予防歯科学講座）（現在に至る）
- 令和 7年10月 鹿児島大学歯学部非常勤講師（予防歯科学分野）（現在に至る）
- 令和 7年10月 岡山大学歯学部非常勤講師（予防歯科学分野）（現在に至る）